

MANY

NO.435



令和2年5月14日(毎月第2・4週配信)MANY(Morality Active Network of Youth)

モラロジー青年活動ネットワーク メールマガジン

FROM 青年育成課

園内のなんじゃもんじゃが綺麗に咲き、幼稚園前のバラ園も咲き始めました。私の心にもパッと花が咲き、とても幸せな気分になりました。

ちょっとしたことですが、見渡せば幸せは、いろんなところで見つけられます。その幸せは見たり、聞いたりなど様々です。幸せをいっぱい見つけてコロナを吹き飛ばしていきましょう！（飯田浩嗣）

園内の花々が綺麗に咲き始めました！

園内の花々がいろんな場所で咲いています。足を運んでの見学は難しい状況ですので、写真でぜひ学園の花々を味わっていただきたいと思います。

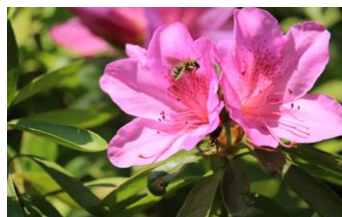


毎年、5月初旬のゴールデンウィークに開花し、写真を撮りくる人が絶えないほど綺麗な花を咲かせ、心を癒してくれるヒツバタゴ(別名なんじゃもんじゃ)が開花しました。学園の中では、中央芝

生の木が一番大きく綺麗に花を咲かせます。なんじゃもんじゃの花は白い花で覆われているので「雪の花」とも呼ばれています。花言葉は「清廉」。今年も、暖かくなった5月にまるで雪が降り積もったように見えるほどに花を咲かせ、清らかな気落ちにさせてくれます。



次に紹介するのは知る人ぞ知るキンランの花です。キンランはと



最後に、馴染みのあるツツジを紹介します。園内のツツジはヤマツツジ、琉球ツツジ、サ

ツキツツジの3種類が咲きます。ツツジの花言葉は「華葉は「節度」「慎み」。他にも色によって花言葉が異なります。興味がある方は調べてみてください。

つけて人の心に、眠れる才能が開花しますよとい。語りかけてくれるかもしれません。

モラロジーネットでメルマガがいつでも閲覧できます！

MANYメルマガ(PDF版)が維持員専用サイト「モラロジーネット」でも閲覧できるようになりました。ログインしたら、左側の「お役立ち一覧」の「各種情報」に入りがります。

モラロジーネット(<http://moralogy.net/>)

またMANYのFacebookでは、日頃の心づかいを振り返ることができるよう『ニューモラル』雑記の連載を始めました。ぜひ閲覧ください。

Facebook(<https://www.facebook.com/moralogy.many>)

『ニューモラル』SNSキャンペーンを展開中

毎年この時期、全国のモラロジー事務所を通じて、街中や学校に届けられ見ることができていた『家族のきずなキャンペーン特別号』ですが、新型コロナウイルスの影響により、直接手元に届けられる機会が減ってしまいました。



しかし、家族の大切さが発揮される今だからこそ、届けていきたいと、特別号を電子書籍化し、SNS(Facebook・Twitter等)を通して広く社会に発信する「SNSキャンペーン」がはじまっています。朗読音声(YouTube)バージョンもあります。一人ひとりが発信者となる時代です。ぜひ、多くの方にご案内ください。

HPこちら(https://www.moralogy.jp/nm_sns_cp/)

日本のおもてなし映像を紹介

先日、廣池理事長からある映像を教えてくださいました。それは1年前に開催され「G20 大阪サミット」の歓迎レセプション映像です。場所は、大阪城公園内の大阪迎賓館。

各国首脳を迎えライトアップされた大阪城のもとで披露されたのは狂言師の野村萬斎さんによる狂言、ピアニストの辻井伸行さん、オペラ歌手の中丸三千繪さんの演奏です。伝統芸能と演奏に最新技術の映像美を織り交ぜた最高のパフォーマンスでした。改めて、日本のすばらしさ、おもてなしの心を知る貴重な映像でした。

今まであまり知ることができない情報が手に入る便利な時代になりました「百聞は一見に如かず」です。THE PAGA というサイトで Youtube 公開されていますのでご覧ください。

第44回全国学生モラロジー研究会テーマが決定しました！！

現在、学生たちはオンライン会議で次のセミナーの準備を進めています。4月からセミナーのテーマを話し合い、ついにテーマが決まりました。

今回のテーマは「Stay hungry～人生よくばれば食べ放題～」です。"Stay hungry"はスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学で卒業生へ贈られた言葉として有名になりましたが、こういう状況だからこそ自分にできることを探して、貪欲に進んでいこうという意味を込めています。



学生たちが巷で流行りの「テレワークで〇〇してみた」をやってみようと、オンラインを活用して、みんなで歌を歌ってみました！ぜひ、興味のある方は YouTube で「関東学研」と検索してみてください。

「おかげさま」をエネルギーに！ ～本当の国の心に思いを寄せる～

私たちが大切にしたい「国の思い」

4月に緊急事態宣言が発令され、さらに5月末まで延長、本日一部解除と変化が激しくなっています。日々のニュースを見て「国は何をやっているのか、対応が遅い」などと国民の不満を拾って

は、それをあおっているマスコミの様に疲れを感じています。

モロロジーでは「国」の伝統を学びます。その伝統とは、天皇および皇室としています。あの日本国憲法においても、天皇は日本国の象徴であり日本国民統合の象徴としています。そう考えると私たちが見るべき「国」、そして、本当の「国の思い」はどこにあるのでしょうか。

新型コロナウイルスに関する天皇陛下のご発言

モロロジーでは「国」の伝統を学びます。その伝統とは、天皇および皇室としています。あの日本国憲法においても、天皇は日本国の象徴であり日本国民統合の象徴としています。そう考えると私たちが見るべき「国」、そして、本当の「国の思い」はどこにあるのでしょうか。

「現在、世界各地で新型コロナウイルスが猛威をふるっています。我が国でも、人々の努力と協力により、爆発的な感染がなんとか抑えられてきましたが、このところ東京などを中心に感染拡大の速度が速まってきていることなど事態の深刻化が懸念されております。医療提供体制のひっ迫が現れ始めていると聞き、先日は、政府による緊急事態宣言も出されました。

この度の感染症の拡大は、人類にとって大きな試練であり、我が国でも数多くの命が危険にさらされたり、多くの人々が様々な困難に直面したりしていることを深く案じています。今後、私たち皆がなお一層心を一つにして力を合わせながら、この感染症を抑え込み、現在の難しい状況を乗り越えていくことを心から願っています。」

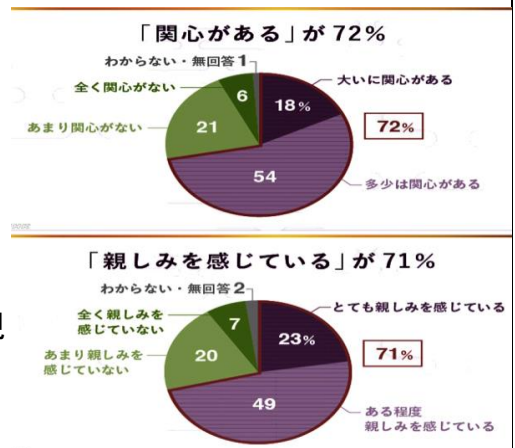
これは、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副座長の尾身茂氏による御進講(4月10日)時の天皇陛下の御言葉です。(宮内庁HPより)

私たちは何をすべきか、どこに心を向けるのが大切ななのかをモロロジーはしっかりと教え示しています。

令和を迎えた皇室への国民の意識

NHKが令和元年9月に行った皇室に関する調査を参考に、私たち国民の皇室に対する考え方を見ていきたいと思えます。

「今の皇室にどの程度関心があるか?、親しみを感じている?」との質問に対する答えは7割が皇室に関心を持ち、親しみを感じているのです。



そして、これからの皇室に最も望むことは、「公民と触れ合う機会を増やす」「日本の伝統文化や伝

統の継承に努める」「国民の幸せや平和を祈る」ことが挙げられ、最後に「皇室に関して最も知りたいこと」で多かった回答は、「天皇や皇族の考え」でした。

ここでお分かりなのは、モラロジーでの学び場にはこの関心に応える場が非常に多いという事実です。私たちはこの潜在的期待に応えられているのではないのでしょうか。

「ご恩返し」を力に

『れいろう』2月号掲載の伊勢雅臣氏が、日本人として天皇陛下の祈りに対するお返しの仕方について紹介しています。

そこには、今上陛下は10月22日の即位礼正殿の儀で、上皇陛下が常に「国民の幸せと世界の平和」を願われてきた御心を継承することを誓われたと陛下のご決意が記載されていました。



「上皇陛下が30年以上にわたる御在位の間、常に国民の幸せと世界の平和を願われ、いかなる時も国民と苦楽を共にされながら、その御心を御自身のお姿でお示しになってきたことに、改めて深く思いを致し、ここに、国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすこみことを誓います。」

歴代天皇の「民安かれ」のお祈りは、代々の先人たちの「国安かれ」の志に火を点し、その志が長い歴史の間に積み重なって、この幸福な国を築き上げてきたのです。このような世界史上にも希な幸福な国にたまたま生まれ合わせたわれわれは、それが歴代の皇室と先人たちの「お陰」であることを認識すべきと訴えています。

なお、この「お陰」への恩返しには、縦横の二種類の責務があることを紹介しています。

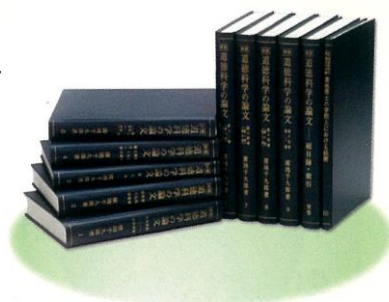
縦の責務は、歴代天皇の「民安かれ」のお祈りと、それに呼応した先人たちの「国安かれ」の努力で築き上げられたわが国を、さらにすばらしい幸福な国として、子孫に引き渡していくこと。

横の責務は、周辺国にたまたま生まれ合わせた人々の不幸を見過ごさずに、彼らが少しでもより良い国をつくれるよう、手助けしていくこと、そのためにも、わが国の君民一体の美しい国柄がどれほど国民の幸福をつくり出すか、というお手本を示すこと

私もこれらが、重要な貢献となると確信しました。

『道徳科学の論文』に見る「恩返し」の結果

『れいろう』には『論文』の意味を読み解くカギがいっぱいあることに気がつきます。ここまで読むと「最高道徳においては、まず伝統を尊重して、これに報恩し、且つ最高道徳的に自己の家業もしくは職務に努力し、しこうして伝統に対してはもちろん、準伝統及びその他に対しても、まずその相手方の名誉もしくは利益の増進につきて、自分の力の及ぶだけ犠牲的努力を払うのであります。



これがすなわち義務の先行であり、徳の貯蓄であるのです。かくてこれを累積すれば、神も、人間も、その至誠を受け取ってくださりまして、末ついにいかなる事でも成就せぬということはありません。

しこうして自分の後日の幸福は予想以上に大きくなるのであります」と、『論文』が身近に感じませんか。

この時期にこそ、私たちは「国の思い」に学び行動するという指針をしっかり持ち、ここぞという時機をのがさないよう「備える」機会にしていきたいものです。

＜青年育成課 森田智＞

【お知らせ】

次号は、令和2年5月28日です

基本的に毎月第2、4週配信！

活動情報、ご意見、ご感想など声をお聞かせください。

MANY事務局へ

[発行・編集]

公益財団法人モラロジー研究所 青年育成課

(<https://www.facebook.com/moralogy.many>)

住所:〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

TEL:04-7173-3312 FAX:04-7173-3259

※掲載記事の無断での転載、再配布はお断りいたします。事務局までご一報ください。